

由井寅子代表あいさつ

「みんな!地球の声なき声をきこうじゃないか」

今回のシンポジウムは農業だけをテーマとするのではない。これは「沈黙の春」と言ってもよい。自然は人間によって崩壊の一途をたどっている。その原因は放射能ならびに農薬や化学肥料、果てはジャガイモの収穫時に撒かれるという枯葉剤なども存在する。

日本の農業を自然農に

今の農業のやり方ではとてもではないが、健やかに暮らせる国にはならない。皆さんがまだ大丈夫と安心していられる状況ではなくなってしまった。地球は私たちに声なき声で警告を発信している。この地球に住む私たちが権利と利益の縛りを乗り越えて行かねば将来はない。ほんとうに気づいたときには鳥がいない。気づいたときにはあめんぼうがいない。気づいたときにはおたまじゃくしがいない。気づいたときには魚もいない。このような状況になる前に手を打たなくてはならない。環境破壊はまさに急務の課題。それには、日本の農業を自然農に戻さなければならない。

今回のシンポジウムでは、人間はどのような生き方をすべきか、農業・環境に対して個人ではどのようなことができるのか、各識者からお伝えしたいと思う。これは非常に重要な問題提起であり、皆さんがこのような問題を積極的に意識することで生き方は確実に変わり、エコロジーになっていくと思う。その行動を起こすのは皆さんである。多くの方が目覚めて、物を大切に生きて生きる、地球を汚さないように生きる、これは、今、国民一人ひとりに求められていることだと思う。

もちろん、当事者である農業従事者の考えが変わらないとこのようなことはできない。私たちがこのようなことを進める上では、もちろんさまざまな軋轢がある。私は農薬を撒き環境を破壊する農家の人々を責めているのではない。農薬がなくても化学肥料がなくても土壌が生きていれば作物は作れるのだということを知ってもらいたいと思っている。

## 農業を保護すべき

また、農家が環境を台なしにしても利益がほしいとお金に走らないよう、国を挙げて日本の農家をヨーロッパのように保護すべきであると思っている。そして環境を破壊しない自然型農業でも農家が食べていけるように野菜の価格を上げていくべきである。だからこそ安くて質の悪い野菜が出回るようなTPPに参加すべきでない。理想はだれもが自分の食べる野菜を自分で作りお互いに交換することでお金もいらず一番自然ではないかと思っている。そうなれるように種から作物が作れる技術を教えていきたい。土とF1でなく遺伝子組み換えでない良い種があれば、どんな時でも生き抜いていける。

私は十七年間、予防接種について問題提起し、突っ走ってきた。そのためか今では多くの人が気づき始めている。予防接種の問題はとてもデリケートであり、これまでもいろいろな軋轢があったが、ひるまず続けてきたことは本当によかったと思っている。

今度は農業と放射能を含めた環境問題をやらねばならないと思い8年前から自らが自然農をやっている。私たちの子ども、子どもの子どもの、美しい自然の日本という国に住めるよう、次の世代に渡していかなければならない。そのためには、一人でも多くの方に、この「日本の農業と環境の問題」を聞いてもらい、真剣に考える機会にさせていただきたいと思う。

日本の農業の復興は環境の復興であり、ひいては日本国の復興である。